

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：84604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K01221

研究課題名（和文）展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査

研究課題名（英文）Survey of historical buildings with participation from local residents based at exhibition facilities

研究代表者

西田 紀子（Nishita, Noriko）

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・室長

研究者番号：80359447

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：明日香村内にて住民から聞き取りをしつつ集落内を踏査した。また、土地利用の変遷資料として、村内に伝来する地籍図や絵図類を調査してデジタル化を実施し、研究資料として活用するとともに、地元ともデータを共有して地域活動を進めた。昭和40～50年代にかけて村の青年らが結成した明日香史跡研究会の活動について調査した。また、研究会が撮影した写真や古写真を現代の景観と比較し、明日香法による体制の中で、飛鳥の景観がどのように変化したのかを考察した。この他、村の林業や貝ボタン製作などの生業についても聞き取り調査を実施した。これらの成果は、飛鳥資料館の展示や村内での講演会などを通して地域に情報発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

飛鳥地域における文化財研究は、これまでは飛鳥時代の埋蔵文化財を中心に調査研究が進められてきた。今回の研究を通して、明日香村内に散在する地域資料を掘り起こして調査し、デジタル化や劣化した資料の応急処置などを実施したことで、地域資料の公開活用を促進し、後世に伝えるための足固めをおこなうことができた。飛鳥地域では、飛鳥時代の遺跡が保存されていることに加え、地域の人々が日々の暮らしを積み重ねたことで歴史的な風土が形成されてきた。その過程を新旧の景観の比較分析や、集落調査などから検証した。調査研究成果は、展示やイベントなどを通じて地域に公開し、文化財研究と地域のつながりの場を築いた。

研究成果の概要（英文）：I surveyed buildings in the villages of Asuka Village, and interviewed villagers during the survey. I also surveyed cadastral maps and drawings in the village, digitized them, and used them while also sharing the data with local residents to promote community activities.

I also investigated the activities of the Asuka Historical Site Research Group, which was formed by young people in the village in the 1960s and 1970s. I compared photos taken by the group at the time with the modern landscape. So, I considered how the landscape of Asuka has changed under the Asuka Law system. I also conducted interviews regarding the village's forestry and shell button production, among other livelihoods.

I disseminated information about these findings to the local community through exhibitions at the Asuka Museum and lectures in the village.

研究分野：建築史

キーワード：明日香村 明日香法 写真 絵図 民家 集落 景観 林業

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

明日香村では、「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法（通称明日香法）」のもと村全域が歴史的風土特別保存地区に指定され、「まほろばの里」とも評される歴史的風土が広がっている。シエナ憲章では、文化的景観の保護と発展にむけた博物館の役割と責任が述べられており、筆者は、飛鳥資料館が、明日香村の文化財や景観の継承に対し、どのように向き合い、貢献できるのかを大きな課題と考えていた。飛鳥資料館は飛鳥の歴史と文化を紹介する展示施設であり、ここを拠点に、地域住民と共に明日香村の文化財や景観の継承と向き合う事は、飛鳥地域の新たな展望につながると期待できた。

また、明日香村内には歴史的建造物をはじめ多様な歴史資料が散在していながら、文化財調査は飛鳥時代の埋蔵文化財を対象としたものが主となっていた。本研究開始以前には、埋蔵文化財以外の多様な文化財に対する調査研究が進まない実状があり、多くの歴史資料が散逸・劣化する恐れがあった。

### 2. 研究の目的

明日香村を価値づける要素の一つが、飛鳥時代の遺跡であることは間違いない。それに加え、現在では、村内に広がる農村景観も多くの人を惹きつける特徴の一つとなっている。しかし、この景観は、単純な文化財保護の理念だけで保存されてきたわけではない。しばしば「歴史的」と評される村の景観は、明日香法というこの村独自の制度下、地域住民の日々の営みと、遺跡の保存・整備と、村の都市計画とが重奏しつつ、この半世紀で形成されてきたものである。

本研究では、明日香村の歴史的風土形成の一翼を担う地域住民の存在を重視し、飛鳥資料館ならではの展示施設の立地・研究員の専門知識と、地域住民の知恵やネットワークを活かし、地域住民とともに当該地域の歴史的建造物や歴史資料の調査、研究を実施して、明日香村の多様な価値を広く伝えることを目的とした。こうした調査研究を通して、明日香村の歴史を描き出し、その成果を展示や地域学習に活用することで、地域の学びと博物館とのつながりの場を築き、明日香村の多様な魅力を住民が再認識し、より上質な歴史的風土が未来へ継承される土壌をつくりたいと考えた。

### 3. 研究の方法

歴史的建造物の調査として、明日香村奥山・飛鳥・島庄・冬野・畑・小山などの大字をめぐり、住宅、宗教建築、店舗などの建造物を対象に、外観から推定できる建築年代と構造形式を記録した。また敷地外から可能な範囲で写真撮影をおこなった。調査にあたっては、明日香村教育委員会および各大字の総の協力を得た。また、取り壊しが決まった明治期の民家や、空き家となっている民家について、所有者の協力を得て調査を実施した。調査の過程では、地域住



図1 奥山の民家調査（外観・現存せず）



図2 奥山の民家調査（内部・現存せず）

民に対し、景観の変遷についての聞き取り調査も積極的におこなった。調査成果をもとに、民家を活用した地域イベントも企画したが、コロナウイルス感染症の影響により実現できなかったことは非常に残念であった。

並行して、明日香村内に残る歴史資料の掘り起こしも進めた。明日香村役場や大字が所蔵する明治期の地籍図を調査し、デジタル化して調査の基礎資料とした。調査の過程で作成したデジタルデータは、所蔵者の同意を得た上で、村民の地域活動に活用できるように調整し、新たな地域活動の活性化につなげていった。また、これらの調査研究成果を、文化協会や大字ごとの集会や老人会などの地域学習の場に公開していく事で、地域住民らが地元の歴史や文化に対する理解を深化するとともに、新たな資料の情報収集につなげることができた。

写真資料の収集も進めた。奈良文化財研究所に保管されている写真をはじめ、入江泰吉記念奈良市写真美術館や京都大学研究資源アーカイブ、京都大学総合博物館、京都大学大学院文学研究科考古学研究室の協力のもと、入江泰吉が撮影した風景写真や、石舞台古墳発掘調査時の写真を収集した。また、辰巳利文による『大和万葉古跡写真』（昭和5年）や末永雅雄『古墳の航空写真集』（昭和60年）などに収録された飛鳥地域の景観や、絵はがきなどの風景写真も調査した。これらの写真のうち、一部については、実際に撮影地を踏査して同地点・同地点で



図3 甘櫨丘から真神原を望む

明日香史跡研究会撮影 昭和45年（1970）



図4 甘櫨丘から真神原を望む

奈文研撮影 令和4年(2022)



現状を撮影し、新旧の景観を比較した写真集を刊行した。

明日香法成立期における地域住民の活動についても調査をおこなった。特に、昭和40年代に村内の青年らが結成した明日香史跡研究会の活動に着目し、設立の経緯や活動内容、明日香法制定の動きへの関与などを調べた。調査の過程で、明日香史跡研究会が撮影した写真資料をデジタル化した。これらの写真は、明日香法成立期における飛鳥地域の景観の記録であるだけでなく、村民自らが保存問題に直面する明日香村の景色を後世に伝えたい、という意志を持って撮影しており、当時の住民の村の景観への意識を反映したものとしても興味深い。そこで、当時の撮影者の意図を聞き取るとともに、どのような景色を評価していたのか、その場所が半世紀の時を経てどのように変化したのかを新旧比較写真を作成して考察した。

地元住民からの情報を受けて、明日香村小山大字が所蔵する江戸時代から明治時代の絵図についても調査を実施した。これらの資料は、小山を流れる百貴川の取水をめぐる水論争に関わる絵図や、土地台帳の調査に関わる資料であった。絵図類は経年による傷みが進行し、紙の継ぎ目がはがれた上に、一部の紙がスタレ状に劣化しており、現状では、日常的な使用や閲覧、保存にも支障をきたしていた。そこで、小山大字の住民と相談し、特に傷みの激しい百貴川絵図3点について、文化財調査および地域における活用、安定的な保存を企図した処置を2021年度から2022年度にかけて実施した。処置後に絵図の詳細調査を実施するとともに、飛鳥資料館の竹内祥一郎研究員の協力を得て、住民を対象とした絵図の見学会を開催した。

明日香村内の産業に関する調査も進めた。明日香村森林組合の協力を仰ぎ、山の景観の変化や、林業に関わる調査を実施した。現在のスギ・ヒノキを主体とする森林の景観が昭和中期以降に形成された過程を確認するとともに、かつての山の暮らしを調査した。また、村内の貝ボタン加工も調査した。これらの調査成果については、飛鳥資料館の特別展で紹介した。展示では地域住民によるトークショーを開催し、地域と飛鳥資料館とのつながりを深めた。

調査にあたっては、他分野の研究者との連携も図り、地域の文化財の再評価に努めた。奈良文化財研究所都城発掘調査部の石神遺跡の報告書作成・再発掘の動きと協働して、須弥山石・石人像が出土した水田の所有者の協力を得て同家が所蔵する古写真を調査し、昭和前半の石神



図5 小山・下八釣村百貴川水論立会絵図 天和2年(1682)カ 925×2247mm

遺跡周辺を撮影した写真をデジタル化した。飛鳥坐神社の資料調査では、近世の神社図の版木などの調査とあわせ、所蔵者からの依頼を受けて奈良国立博物館とともに大型鏡の調査を併行して実施した。このような活動を通して、地域の文化財の再評価につなげた。

#### 4. 研究成果

明日香村内では、明日香法や明日香村景観条例などのもと、建築の規模や意匠・形態などの基準が定められ、集落の景観は一定の秩序のもとに形成されている。そのため、新築された家屋も、既存の集落の環境と馴染む材料や色味・形態・意匠でデザインされ、変化が見えにくくなっている。しかし、実際には、檜前や雷など多くの集落で茅葺き民家や近世近代の民家の立替が進みつつあることがわかった。

また、明日香村は農地及び山林が村全体の8割に及ぶ。村の人々が日々手を入れてきた「田畑」と「山林」、そして村の人々が暮らす「集落」が村の景観を形成してきた。しかし、新旧比較写真を通して、傾斜地の藪の増加や、森林の過度な成長、竹林の拡大など、景観の変化が明らかになった。この変化の背景には、農業就業人口の減少や高齢化率および遊休地・耕作放棄地の割合の上昇現状が指摘できる。明日香村の景観形成の最大の担い手が、明日香村で日々農林業を営む人々の存在であることは、農林業の現状と半世紀の景観の変化を合わせてみても明らかである。

こうした研究成果を広く伝えるべく、本研究では、以下の展示やイベントを実施した。

- ・飛鳥資料館平成30年度春期特別展『あすかの原風景』（2018年4月27日～7月1日）
- ・飛鳥資料館令和元年度春期特別展『骨ものがたり 環境考古学研究室のお仕事』体験コーナーにおける明日香村貝ボタン製作の紹介（2019年4月23日～6月30日）
- ・飛鳥資料館令和元年度秋期特別展『飛鳥 自然と人と』（2019年10月11日～12月1日）
- ・飛鳥資料館令和4年度第13回写真コンテスト関連企画「懐かしの原風景 - 明日香史跡研究会が撮影した高松塚古墳と遺跡」（2022年7月15日～9月11日）

これらの展示やイベントを通じて、博物館を拠点に、文化財研究と地域のつながりの場を築き、地域の学びの場を広げ、明日香村の多様な魅力をより多くの人々に伝える事ができた。また、博物館の「集める力」を活かして、資料の収集や情報発信を進め、その成果を集落の集会における説明や資料提供などを通じて地域に還元した。

このように、本研究では、飛鳥地域の多様な文化財の掘り起こしと再評価、保存活用に向けた道筋をつけることができた。今後も、飛鳥の独自性を尊重しつつ、地域と連携した文化財研究を継続することで、人々の生活をより豊かにする活動をつづけていきたい。



図6 飛鳥地域の住民とともに実施したイベント「ふるさと飛鳥を語る」2019年11月15日

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 西田紀子	4. 巻 -
2. 論文標題 明日香村小山大字所蔵 百貫川関連絵図について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田, 紀子, 飯田, ゆりあ	4. 巻 5
2. 論文標題 懐かしの原風景 明日香史跡研究会撮影写真からみる飛鳥の半世紀	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所学報：文化財論叢	6. 最初と最後の頁 1039～1060
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24484/sitereports.132169-121145	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西田紀子	4. 巻 269
2. 論文標題 明日香のいまむかし	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊大和路ならら	6. 最初と最後の頁 10頁～15頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田, 紀子	4. 巻 2018
2. 論文標題 明日香村所蔵の明治期の地籍図の調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要：奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 30～31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24484/sitereports.65336-19719	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西田, 紀子	4. 巻 2020
2. 論文標題 文化財研究と地域をつなぐ実践 - 飛鳥資料館の取り組みから -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要 : 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 36 ~ 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24484/sitereports.72568-63441	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 西田紀子
2. 発表標題 あすかの原風景を訪ねて
3. 学会等名 明日香村文化協会文化講座(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 西田紀子 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 飛鳥資料館	5. 総ページ数 104
3. 書名 飛鳥 自然と人と	

1. 著者名 西田紀子 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 飛鳥資料館	5. 総ページ数 72
3. 書名 あすかの原風景	

1. 著者名 西田紀子 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 飛鳥資料館	5. 総ページ数 48
3. 書名 Asuka Past & Present -あすかの原風景-	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>秋期特別展「飛鳥 - 自然と人」とー <a href="https://www.nabunken.go.jp/asuka/kikaku/post-39.html">https://www.nabunken.go.jp/asuka/kikaku/post-39.html</a>  あすかの原風景 <a href="https://www.nabunken.go.jp/asuka/kikaku/post-34.html">https://www.nabunken.go.jp/asuka/kikaku/post-34.html</a>  あすかの原風景 今と昔をくらべてみると・・・1 <a href="https://www.nabunken.go.jp/asuka/info/post-169.html">https://www.nabunken.go.jp/asuka/info/post-169.html</a>  あすかの原風景 今と昔をくらべてみると・・・?2 <a href="https://www.nabunken.go.jp/asuka/info/post-171.html">https://www.nabunken.go.jp/asuka/info/post-171.html</a>  明日香村内をめぐるウォークイベントの開催(2018年度、2022年度)  ショートムービーAsuka Past &amp; Present あすかの原風景 明日香史跡研究会のアルバム(奈良文化財研究所第14回東京講演会にて放映)  地域の集会における説明および資料提供など(明日香村上居、岡、飛鳥、小山などで実施)</p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------